



令和元年5月31日発行

第 108 号

事務局 〒169-0051 東京都新宿区
西早稲田2-18-23スカイエスタ507
TEL/FAX 03-6457-3921
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
<http://www.seishineisei.gr.jp/>

〈目 次〉

日本精神衛生学会 第34回大会を終えて……………1

日本精神衛生学会 第35回大会のお知らせ

(2019年12月7・8日 於 別府大学)……………2

日本精神衛生学会 第34回大会の実行委員長を務めて……………3

大会に参加して……………4



日本精神衛生学会 第 34 回大会を終えて

第 34 回大会長 菅野 恵(和光大学)

2019 年 2 月 15 日から 17 日の 3 日間に和光大学ポブリホール鶴川(東京都町田市)で行われた第 34 回大会は、多くの方のご尽力のおかげで無事終えることができました。大会テーマは「子どもから学ぶメンタルヘルス」でした。そこで、この大会ならではのちょっとした試みや独自性をご紹介します。

1. 参加費 1,000 円

非会員の方に本学会の存在や魅力を知ってもらいたいという想いをこめて、初日のみ 1,000 円で一般公開シンポジウムに参加できる試みを行いました。「児童虐待と自殺の問題から子どもの未来を考える」といった重いテーマでしたが、深刻な状況をフロアのみなさんと共有することができました。

2. 児童虐待や公認心理師の関連テーマ

大会長である私が児童虐待問題に取り組んでいることから、乳幼児のアタッチメントに関する内容や、歯科医学の観点からの教育講演がありました。また、タッチング(身体接触)をテーマとしたワークショップも開催されて盛況でした。国家資格化されたばかりの公認心理師に関するシンポジウムが開催できたことも感慨深かったです。

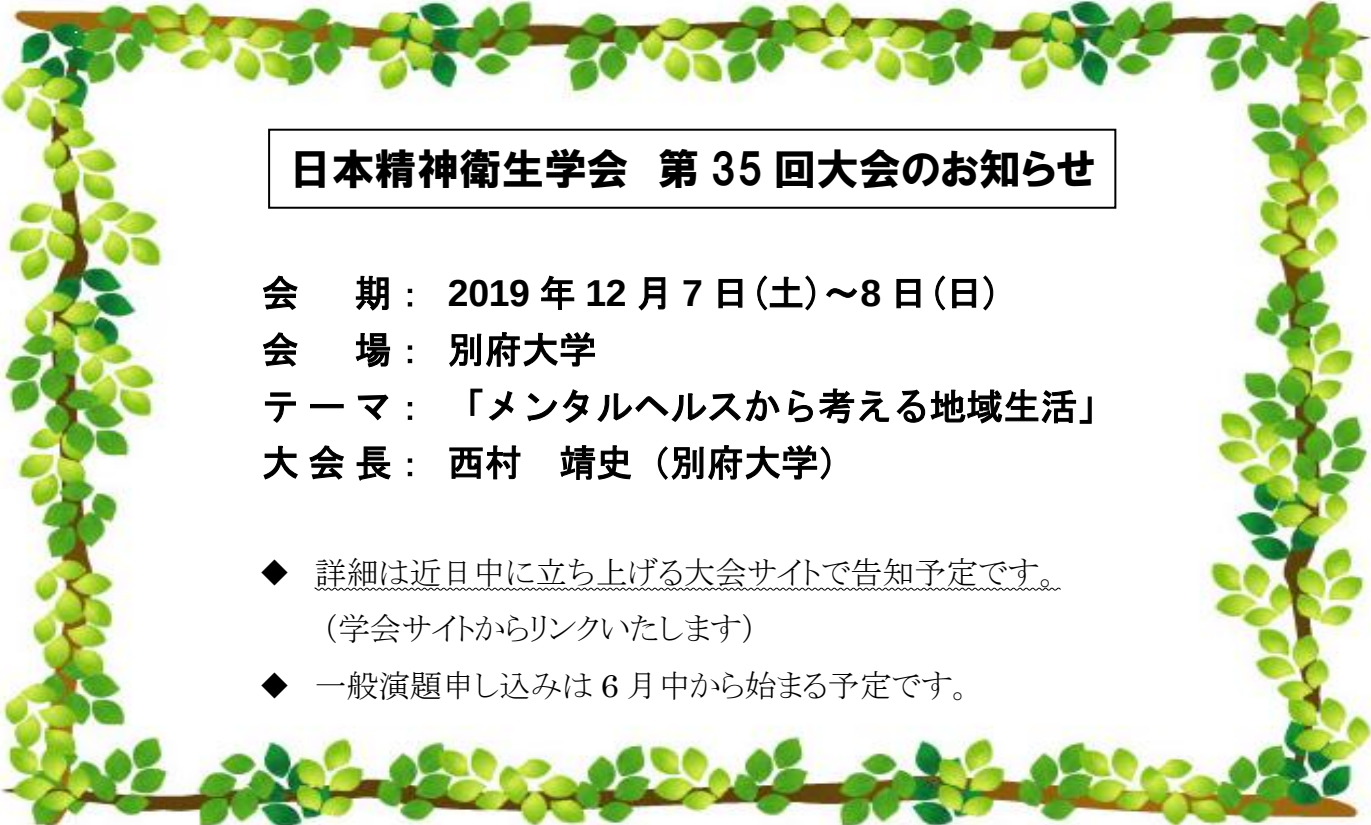
3. ラウンドテーブルの開催

学会のワーキンググループから企画要請があったものの、小スペースしか会場が確保できなかった事情から、少人数でじっくり検討できるようなラウンドテーブルを2企画行いました。参加者も積極的にディスカッションに加わる形はとても新鮮でした。

4. 活動紹介の展示コーナー

十分な事前告知はできませんでしたが、研究発表だけでなく各種団体の活動紹介の展示コーナーを設けました。現役高校生が開発したコミュニケーションゲームの展示もあり、高校生たちが熱心に来場者の対応をしている姿に心を打たれました。

大会全体を通して至らない点多々あったかと思いますが、次回の別府大会に何とかたすきを渡すことができました。参加者の皆様、登壇された先生方、影山理事長をはじめとした理事の先生方、実行委員・学生スタッフ、寄付・広告協賛をいただきました個人・団体などのすべての関係者に深謝いたします。



日本精神衛生学会 第35回大会のお知らせ

会 期： 2019年12月7日(土)～8日(日)

会 場： 別府大学

テ ー マ： 「メンタルヘルスから考える地域生活」

大会長： 西村 靖史（別府大学）

◆ 詳細は近日中に立ち上げる大会サイトで告知予定です。
(学会サイトからリンクいたします)

◆ 一般演題申し込みは6月中から始まる予定です。

日本精神衛生学会 第 34 回大会の実行委員長を務めて

第 34 回大会実行委員長 高橋恵一(公立学校スクールカウンセラー)

2019 年 2 月 15 日から 17 日、和光大学ポブリホール鶴川を会場として、菅野恵先生を大会長に、日本精神衛生学会第 34 回大会が開催されました。本大会において、私は実行委員長を拝命し、歴史ある大会の運営に関わらせていただく貴重な体験をさせていただきました。ご参加いただいた皆様、ならびにご登壇された先生には、心より感謝申し上げます。

実行委員長を務めさせていただいて、私が印象的だったのは、大会の開催に向けた準備作業でした。これまで大会運営に関わった多くの先生が、見えない所で沢山の準備作業を担ってこられたかと思うと、そのご尽力に頭が下がる思いです。会場との打ち合わせや予算・人員配置、懇親会の料理、お酒、お弁当発注まで、とても一人では対応しきれないと感じる部分も多く、実行委員の先生や院生・学生スタッフを含めたチーム体制で動く大切を実感いたしました。

懇親会では、会場を盛り上げてくれた和光大学のフラスサークルの皆さんも含め、全員で記念撮影をさせていただいたのも良い思い出です。皆様の笑顔を見て、「ようやく大会も一山越えることができた」と、ホッと胸を撫で下ろすことができたことを覚えています。

実行委員長の仕事は、プレッシャーや大変さもありましたが、それと同時に学生時代の文化祭のような懐かしさ、楽しさも味わうことができました。私にとって、いわば大人の文化祭のような場だったのかもしれませんが。学会の先生と学術文化の祭りに参加させていただいたことは、大会テーマとも重なりますが、私の「メンタルヘルス」においても良い「学び」を与えてくれる貴重な場となったように思います。ご参加いただいた皆様、ならびにご登壇された先生にも、少しでも心に響く大会となっていましたら幸いです。今後も、日本精神衛生大会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

大会に参加して

公立学校スクールカウンセラー 田邊那子

和光大学の菅野恵先生を大会長に、日本精神衛生学会第 34 回大会「子どもから学ぶメンタルヘルス」が開催され、私は2日目の大会に参加させていただきました。

私はこれまでに児童相談所の児童心理司や、大学病院の NICU の臨床心理士、公立学校のスクールカウンセラー(以下 SC)などを勤めてきています。本大会のプログラムは、どの演目も私の近接領域と感じられるものばかりで大変興味深かったため、本学会の大会の参加は初めてでしたが、とても有意義な学びの機会となりました。

本大会で特に印象に残ったのは、日本歯科大学の岩原香織先生による「歯科法医学における子どもとの関わり」でした。SC をしていると、養護教諭の先生から「あの子、毎年虫歯が多いし、治療されないから気になるんです」というお話をいただくことがあります。話に挙がる子はたいていが歯だけではなく、

必要な物が揃いにくい、身なりが汚い、落ち着きがないなどの気になる要素が他にあります。学校が気にしているのにアプローチできずにいるケースは、それなりの理由があります。そのような時に、岩原先生のような方にご相談ができれば、現場で「おやっ？」と感じた、その大事なきっかけが根拠となり、ケースへの介入に繋がると感じました。児童相談所で勤務をしていますが、歯科の先生とお話する機会は滅多にありません。今回、子どものメンタルヘルスに携わる者として、大変貴重なお話をうかがえたと思います。

また、本大会で特に強く感じたことがあります。それは、本大会が重たいテーマを掲げながらも、とてもアットホームで大会そのものが温かい空気に包まれていたことです。そのような中で子どものメンタルヘルスを真剣に再考し、学ぶことができたことに深く感謝申し上げます。

